検討委員会の目的と４つの検討事項

適正な規模

◎教育効果を最大化できる学級数、児童・生徒数の基準を検討します。



◆適正な規模◆
小学校　1校あたり　○学級以上（1学年あたり○学級以上）が望ましい
中学校　1校あたり　○学級以上（1学年あたり○学級以上）が望ましい
※1クラスあたりの人数の上限は、○人とする。

・部活動の不成立、選択肢の極小化への対応、児童・生徒が少なすぎる
・人間関係の固定化と逃げ場のなさ（クラス替えができない。男女比のバランス）
・長年の序列により、切磋琢磨して成長する姿が少なく感じる。
・運動会、合唱コンクール等の学校行事の小規模化（集団活動・行事の教育効果の低下）
・高校進学等の時に、多人数の中に入るギャップに馴染めず苦慮する。
・集団の中で、多様な考え方に触れ、時には競い合って学びを高め、社会性などを身につける
・複式学級が要求する高度な指導技術、教師個人の力量への依存によるバラツキの発生

適正な配置

◎統合するとしたらどのような配置が考えられるかを検討します。



◆適正な配置◆
・望ましい再編方針（学校統廃合・小規模校の存続）
（優先順位、小中一貫校など新たな教育制度の検討など）
・既存学校施設の活用方針
・再編にあたって配慮すべき事項
（通学環境の検討、各学校の特色ある教育活動の継承など）

・R7.10月中学生議会により中学校統合要望がある。
・R8.7月保護者アンケートにより、「小学校を2校に統廃合」「中学校を1校に速やかな統廃合」意見がある。
・施設等教育環境への集約投資、経費削減（体育館への空調設備等ハード面の課題への対応）
・学校の維持管理経費の削減
・統廃合によるコミュニティ衰退への懸念、学校を通じた多世代交流の核（学校を核とした地域づくり）

望ましい教育環境の提　供

適正な通学環境

◎安全で無理のない通学環境(距離・方法)を検討します。

◆適正な通学環境◆
小学校は、概ね○Km以内が望ましい
中学校は、概ね○Km以内が望ましい
→通学サポート地域への対応（区域指定、方法など）

・現状の通学サポート地域
明覚小→大字大附地区、萩ヶ丘小→大字大野、椚平地区、玉川小→大字田黒、五明、日影地区、
玉川中→なし、都幾川中→大字大野、椚平地区
・現状の最長徒歩登校距離(R8)
明覚小→概ね2.5Km、萩ヶ丘小→概ね2Km(大字雲河原地区 概ね4Kmは、自己送迎)、玉川小→概ね3Km
※都幾川中、玉川中の生徒は、全域自転車通学が許可されています。



実施時期

◎今後のスケジュールを検討します。

◆実施時期◆
長期計画：
中期計画：
短期計画：

・R7.10月中学生議会により中学校統合要望がある。
・R8.7月保護者アンケートにより、「小学校を2校に統廃合」「中学校を1校に速やかな統廃合」意見がある。

◆今後の検討で考慮すべき事項・意見（まとめ）◆

